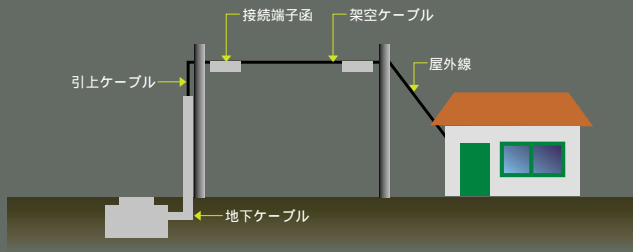
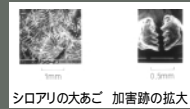
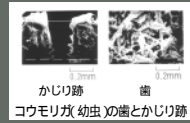


# 通信線路設備における主な生物被害箇所

通信線路設備における生物被害は、主に森林地帯の架空設備で発生しているが、一般地域の架空および地下設備でも発生するおそれがある。

加害生物	被害設備	対策
鳥	架空ケーブル	HSケーブル、防止線工法
	引上ケーブル	鳥害防止帯
昆虫	ア リ	隙間充填
	架空ケーブル	枝・つるなどの除去、HSケーブル
	シロアリ	防除剤
	蛾の幼虫	架空ケーブル
クマゼミ	屋外線	屋外線G
げっ歯動物 (リス・ネズミ)	架空ケーブル	HSケーブル、防リスシート
	屋外線	屋外線G



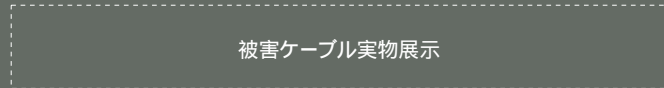
## キツツキによる被害

北海道を中心として、キツツキによるケーブル外被の穿孔被害が数多く発生していた。CSケーブルや、HSケーブルに張り替えを行うことで、1987年以降被害が減少した。引上ケーブルの被害には、鳥害防止帯で対処している。



## げっ歯動物による被害

ケーブル外被がリス・ネズミなどのげっ歯動物によって被害を受けることがある。被害箇所は上下2本ずつのかじり跡が残っているのが特徴であり、そのかじり跡の幅を測定することで加害生物を特定することができる。対策としてHSケーブルへの張り替えが有効である。



## コウモリガの幼虫による被害

鉛被ケーブル時代からコウモリガの幼虫による被害は報告されていたが、プラスチック外被ケーブル導入後もケーブル外被穿孔被害は発生している。被害は、樹木つる草などが接触しているケーブルや引上ケーブルで発生しており、支線へのつた返しの取り付け、鳥害防止帯の引上ケーブルへの取り付けが有効な対策である。



## シロアリによる被害

シロアリは、マンホール壁面に分巢や蟻道をつくり、通信ケーブル外被をかじり損傷させることがある。そのため、シロアリを除去するために、シロアリ防除剤で管路内を洗浄する対策を取っている。



## FFAクロージャのアリ害

FFAクロージャ内にアリが巣をつくり、光ファイバ心線が断線する事故が発生した。対策として、アリがFFAクロージャのツメ部の隙間から進入していたことから、SDテープで隙間を埋め、アリの進入経路を断つ方法が有効である。

